

教育に関すること

まちづくりワークショップ 第3回 まとめ <第3部会：教育>

日 時：平成21年4月10日（金）18：30～20：30

場 所：市役所議会棟4階第一委員会室

出席者：大村、岡本、郷、橋本、林、牧田、吉田、吉堂、（小阪） 計9人

<意見のポイント>

○「市民生活の利便性」

（良い点）

- ・人口が多い
- ・生活がしやすい、商店街が多い、3年後の寝屋川市駅東地区に期待している
- ・自転車が多い、公共の交通が便利、急行が停車する

（良くない点）

- ・核家族、単独世帯が多い
- ・便利不便が両極端
- ・公共施設の配置がバラバラ
- ・文化活動発表する場や施設（ホール）が少ない
- ・寝屋川駅前の商店街がさみしい
- ・住宅内の区画整理が遅れてる、道路がせまい
- ・用水路にゴミを捨てる人が多く、水がきたない

○「野外空間」

（良い点）

- ・広域な公園がある
- ・公園がきれい、親水空間、桜がきれい

（良くない点）

- ・公園が少ない
- ・身近に遊ぶ場所がない、子ども（小学生）が放課後に居場所がない
- ・テニスコートを借りるのに手続きが面倒

○「教育について」

（良い点）

- ・小学校の合併により、教育の現場の活性化につながっている
- ・教育機関が充実している：摂南大、電通大、高専
- ・市のホームページで教育委員会の部をみたが、プラン方針は学習と精神面社会ともすばらしい

(良くない点)

- ・ 学校規模が違いすぎる
- ・ 小学校の門が閉鎖されている
- ・ 小 6 年生～中 2 の学力、素行（行儀）とも良くない、小中学生の学力が平均以下？
- ・ 教育の行事等への父親の参加が少ない、子どもに対して干渉しすぎる母親
- ・ 市のホームページ教育委員会の取組は、具体的に進められていないのではないか、進展が見えない

○ 「市民活動」

(良い点)

- ・ 「元気ねっ」と、「あきんどねっ」となどの市民活動が活発
- ・ 地域がボランティアで子どもを見守っている
- ・ 福祉の活動面は市、民間（ボランティア）を含め近隣市と比べレベルが高い

(良くない点)

- ・ ボランティア活動する団体に依存しすぎる
- ・ ボランティア活動に依存するならば、表彰等の対応策を考えればどうか
- ・ 自治会単位の指導支援が少ない

○ 「 P R 」

(良い点)

- ・ 淀川：知名度が高い

(良くない点)

- ・ 市外の人に、寝屋川の文化や情報があまり P R されていない
- ・ 市外への市の良い所の P R が下手

< 次回すること >

本日の「教育について」の内容を、次の 2 点からほりさげてみる

- ・ 高齢者グループと小 6 ～中 2 の年齢の生徒のジョイント社会性（礼儀）
- ・ ビジネスプラン（高齢者と小学生の交流のプラン）：データ等を準備する

以 上

まちづくりワークショップ 第4回 まとめ <第3部会：教育>

日 時：平成21年4月24日（金）18：30～20：30

場 所：市役所議会棟4階第一委員会室

出席者：大村、郷、橋本、林、森本、吉田、吉堂、（小阪） 計8人

<意見のポイント>

まず、前回の良い点・良くない点の確認と追加について議論した。次に今回は前回確認した「教育について」の内容のほりさげとして、次の2点について提案した各委員から報告があり、それをもとに議論を進めた。

- ・高齢者グループと小6～中2の年齢の生徒の交流、社会性（礼儀）
- ・ビジネスプラン（高齢者と小学生の交流のプラン）：データ等の冊子で報告

学校教育

○学校教育

- ・寝屋川市内の地域差
- ・子どものやる気
- ・学力の2極化

○学童保育

- ・学童保育が少ない
- ・空き教室の利用
- ・学童保育士の資格がいるのか？→市で調べる（必要との報告有り）
- ・緑の家

○交流方法

- ・高齢者と小6～中2年齢の交流方法
- ・高齢者と小学生の交流（小学校低学年、保育園児の情操教育が必要、基礎的な考え方が養われる）
- ・よみかせ後継者ができる 中学校から要請有
- ・高齢者に戦中戦後の時代の話：老人会利用
- ・小6～中2の学齢を対象とする：部会をこえて
- ・中学生クラブ（部活）単位で交流
- ・高齢者が企画の夏まつりの出店：部屋、運動場
- ・手づくりおもちゃ手芸など

- ・歌のコンサートで高齢者の方があつまる

社会教育・生涯学習等

○問題点

- ・少子高齢化
- ・母子家庭、父子家庭
- ・女性の意識変化
- ・親の意識改革、親の教育
- ・高齢者単独家庭、活躍してもらう：核家族

○「社会性」を身につける

- ・他世代の交流
- ・父親の存在が弱い
- ・男親の替わりを高齢者（第三者）が出来るようにする
- ・子ども会：ジュニアリーダー１～６年 婦人会老人会：自治会交流
- ・小～中～高までリーダー育成 市子連と行政といっしょに養成
- ・の組織づくり
- ・おこってくれる存在が子どもにいない
- ・理系の学生は交流がへた？
- ・子どもが（人に対して）“力加減”がわからない
- ・専門分野（コンピューター・ロボットなど）

○地域で交流を深める「地域コミュニティ」

- ・チャンネルがたくさんある（個人が選べる）
- ・個人情報でつかめない
- ・伝統的 テーマ的
- ・組織に強制力がない
- ・情報を口コミで広げる
- ・活動のいろいろなチャンネルをもつ

- 仮説

- ・ 中・高生が社会に目を向けるように
- ・ 学校教育のレベルと社会教育のレベルは比例するのか？

< 次回すること >

本日の内容をつめていく

以 上

まちづくりワークショップ 第5回 まとめ <第3部会：教育>

日 時：平成21年5月8日（金）18：30～20：30

場 所：市役所議会棟4階第一委員会室

出席者：大村、岡本、郷、橋本、林、牧田、森本、吉田、吉堂、（小阪） 計10人

<意見のポイント>

まず、前回の

- ・高齢者グループと小6～中2の年齢の生徒の交流、社会性（礼儀）
- ・ビジネスプラン（高齢者と小学生の交流のプラン）：データ等の冊子で報告

について、議論を深めた。さらに地域間、社会教育等の他のテーマも含めて意見を出し合った。最後に中間発表に向けて、3回分のふりかえりをみんなで確認し発表の仕方を相談した。

テーマ

- ・総合センターでの小学生の絵画展示会の件で、出展に積極的な学校とそうでない学校があるように見える
- ・学校（先生）の積極性が要因：例 年4回の駅前そうじ（社明の取り組み）
- ・10年程前……そして今：子ども議会の開催、24小学校区中の何校区で取り組み中
- ・学校教育でどの程度（内容）の地域差があるのか
- ・公平に教育が受けられる状況について
- ・少人数教育の方が良い？
- ・学力の底上げ：中高生の多様なチャレンジが必要
- ・マンモス校と小規模校がある地域で、社会的評価が違っているように感じられる：マンモス校の方が社会的評価が高いか
- ・寝屋川市は教育に熱心？（小学校の選択が可？）
- ・住環境 良 ← → 悪 では子どもの学力は？
- ・親の収入 高 ← → 低 では子どもの学力は？
- ・ブランド校は、地価が高く、収入の高い居住者が多い
- ・学校ごとのイメージがある（特に中学校、高校）
- ・学力の2極化、寝屋川市内の地域差
- ・親の経験がうけつがれる（DNA）？
- ・特徴を示した「○○指定校」を作る（中学校ごと）

テーマ

- ・「人間力」は知識だけではない
- ・「学力」はいろんな指標が必要
- ・親の経験の少なさが問題・……
- ・ケーブルテレビの利用：例 しつけチャンネル地域特集
- ・「親学」が必要
- ・競争させることは良いのか？ガマンは悪いのか？：サッカーでは年齢差、公式戦で対応をかえている
- ・「常識力」：あたり前のことが欠けている、例えばあいさつ
- ・社会教育には「ありがとう」「我慢する」が必要（高齢者の役割である）

テーマ

- ・高齢者や市民のグループで中学校の周辺の掃除活動（交流の糸口）
- ・教育ボランティア従事者の参加に対するポイント制の導入（参加意欲の向上）
- ・中学生との交流はスポーツが主力になりそう、高齢者はスポーツ活動ボランティアの幹旋又はサブ的役割：役割分担
- ・中学生との交流には市民活動グループ（既設）を活用すべき
- ・高齢者＋子どものイベント企画：既存イベントにコーナー出店
- ・老人ホームへの訪問：ゲーム、クラス単位で受け入れ
- ・ラジオ体操を家族でしている家庭の小学生：近所の人にあいさつをしている
- ・1中学校に2小学校：交流、イベント成人式、連携・地域・学校の姿勢
- ・社会教育／地域に開かれた学校教育（社会見学、講演等）：社長塾京都市
- ・社会教育／子ども同士のタテのつながり
- ・高齢者が目的を理解して交流する
- ・学校教育と社会教育との連携
- ・子どもに対する情報発信：多様、各学校での対応
- ・興味を持たせる
- ・子どもに提供するのではなく選択させる
- ・本人の積極性が大切

その他のテーマ

- ・子どものやる気
- ・親の意識改革
- ・ゼーんぶ楽しもうよ！：同じやるならまず参加しよう！チャレンジ
- ・学校教育のレベルと社会教育のレベルは比例するのか？

<次回すること>

- ・ 中間報告のためのまとめと、発表のしかたを考えてくることを宿題とする。

以 上



●テーマ 学力の2極化、寝屋川市内の地域差

総合センターでの小学生の絵画展示会の件で、出展に積極的な学校とそうでない学校があるように見える／学校（先生）の積極性が要因：例 年4回の駅前そうじ（社会を明るくする運動の取り組み）

学校教育でどの程度（内容）の地域差があるのか／公平に教育が受けられる状況について／少人数教育の方が良い？／学力の底上げ：中高生の多様なチャレンジが必要／マンモス校と小規模校がある地域で、社会的評価が違うように感じられる：マンモス校の方が社会的評価が高いか

ブランド校は、地価が高く、収入の高い居住者が多い／学校ごとのイメージがある（特に中学校、高校）／親の経験がうつがれる（DNA）？／特徴を示した「○○指定校」を作る（中学校ごと）

●テーマ 社会教育には「ありがとう」「我慢する」が必要（高齢者の役割である）

「人間力」は知識だけではない／「学力」はいろんな指標が必要／親の経験の少なさが問題……／ケーブルテレビの利用：例 しつけチャンネル地域特集／「親学」が必要／競争させることは良いのか？ガマンは悪いのか？：サッカーでは年齢差、公式戦で対応を求めている／「常識力」：あたり前のことが欠けている、例えばあいさつ

●テーマ 学校教育と社会教育との連携

高齢者や市民のグループで中学校の周辺の掃除活動（交流の糸口）／教育ボランティア従事者の参加に対するポイント制の導入（参加意欲の向上）

中学生との交流はスポーツが主力になりそう、高齢者はスポーツ活動ボランティアの斡旋又はサブ的役割：役割分担／中学生との交流には市民活動グループ（既設）を活用すべき／高齢者＋子どものイベント企画：既存イベントにコーナー出店／老人ホームへの訪問：ゲーム、クラス単位で受け入れ／ラジオ体操を家族でしている家庭の小学生：近所の人にあいさつをしている／1中学校に2小学校：交流、イベント成人式、連携・地域・学校の姿勢／社教/地域に開かれた学校教育（社会見学、講演等）：社長塾京都市／子ども同士のタテのつながり

高齢者が目的を理解して交流する／子どもに対する情報発信：多様、各学校での対応／興味を持たせる／子どもに提供するのではなく選択させる／本人の積極性が大切

●必要なこと

子どものやる気／親の意識改革

●最終目標

ゼーんぶ楽しもうよ！：同じやるならまず参加しよう！チャレンジ

まちづくりワークショップ 第7回 まとめ <第3部会：教育>

日 時：平成21年6月19日（金）18：30～20：30

場 所：市役所議会棟5階第二委員会室

出席者：大村、郷、橋本、林、牧田、森本、吉田、吉堂、（小阪） 計9人

<意見のポイント>

中間発表の内容を振り返り、いくつかの提案に絞っていくこととなった。委員が自由に意見を出し合いながら、関連する意見や提案も出された。これらを以下の4つのテーマに整理をし、そのテーマ毎に現状と問題点・課題、提案として整理した。

テーマ①親対象の教育

- 現状と問題点・課題
 - ・親と子の世代によってコミュニケーションのとり方がちがう
 - ・子どものコミュニケーションのとり方等に大人の方がついていけない！
 - ・安心安全メールは利用者が多い
- 提案
 - ・子どもが何に興味を持っているのかを調べる
 - ・ケーブルテレビの利用、しつけチャンネル地域特集
 - ・学校単位の掃除からはいる、大人からはじめる
 - ・マップにする → 広報にのせる

テーマ②学校内対象

- 現状と問題点・課題
 - ・校門を閉めているので地域の利用は難しいのでは
 - ・学校に地域の利用に関する受け入れ体制はある
 - ・カード制（市民が所有する通門証）で学校が開かれている場合もある
 - ・中央集権 → 多様性
 - ・授業時間がたりない
 - ・学校に対し情報のピラが多いと、配布は学校の先生の判断がはいるのでは
子どもがえらべるのか？
 - ・自分で調べたことはおぼえている。例えば、修学旅行先を調べて → 行って → 発表 → まとめる、自分調べ → 平和学習 広島・長崎
 - ・学校の教育は学力にかたよっている、学校にゆだねると学力だけになってしまう
 - ・教育内容は、マンガ、アニメの方が子どもに理解される

○提案

- ・地域の利用等の連携のために校門の開放を目指す（方法は・・・・・・？）・学校にマンパワーとしてボランティアをうけ入れる、まず、指定校 → 成果ができれば → 広げていく
- ・話しを聞かせる会を
- ・ようこそ先輩方式
- ・やらせるのは学校教育でよい

テーマ①親対象 + テーマ②学校内対象

- 現状と問題点・課題
- ・共通体験が大事

テーマ③地域との連携

- 現状と問題点・課題
- ・生涯学習誌掲載の団体・サークル1200団体、社会福祉協議会50、市民活動センターの各種団体160 計1400グループほどある
- ・行政の施設担当は会員の数が増えるだけで満足しており、施設の利用者、団体をさがしていない。行政は器はつくるが、くる人は気にかけていない
- ・今の子どもに差がある：元気、時間、親の理解があるか
- ・子どもは、平和の塔よりも出店（でみせ）のほうが興味がある：ねやがわピース
- ・「寝屋川市まちのせんせいバンク」は実施中
- 提案
- ・サークル団体のコラボレーション
- ・サークル紹介所を
- ・行政機関の活用
- ・子どもと大人とどのようにひっつけるか
- ・サークル活動のとっかかりをスポーツにして → 定期的化、スポーツにかたよらないように輪番制に

テーマ④学校内対象 + テーマ⑤地域との連携

- 提案
- ・させたいこと：学校教育・社会教育のリンク

テーマ⑥共通事項

- 現状と問題点・課題
- ・昔の縦社会の関係がうすい

- ・各グループを連携するのが難しい
- ・既存団体間の横の連携がとれない、とらないのか
- ・今あるシステムがうまくいってないから

○ 提案

- ・礼儀、道徳の教育を中心に：リーダーは高齢者
- ・何かの機会が集まることができれば
- ・テーマをきめてコンテスト
- ・よびかけて：サークル側の意欲次第

その他

- ・市民の声をききたいのがWSの目的
- ・現行の計画の実行がどこまでできているのか、市民が振り返るしくみが必要

< 次回すること >

4つのテーマからいくつかを選び、それらを深めて提言に結びつけていく議論を行う。

以 上

まちづくりワークショップ 第8回 まとめ <第3部会：教育>

日 時：平成21年7月3日（金）18：30～20：30

場 所：市役所議会棟4階第一委員会室

出席者：大村、岡本、林、牧田、吉田、吉堂、（小阪） 計7人

<意見のポイント>

前回の4つのテーマごとに、いくつかの提案に絞っていくことを目的に、委員が自由に意見を出し合いながら、関連する意見や提案も出された。これらを実現していくためには、既存組織だけではなく、第3者組織づくりが必要であることが全員の共通認識となった。

<意見の内容>（○印は提案）

テーマ①親対象の教育

- ・親層の教育・学習が第1である。
- ・「おやじの会」は、全国ネットの組織力があり、コミュニケーションも良い。
- ・母親同士のコミュニケーションは、学齢期までは、学年会、乳児健診、子どもセンター等でできている。
- ・今の親の関心事等のキーワードは、スポーツ新聞、保育所、塾、飲食、HPネット、パチンコ屋、駅前、コンビニ・スーパーである。
- ・成人教育講座は、学校で差があり、積極性がない。コミセン単位で実施している。
- ・親学は、「塾の先生」、特に歳が近い講師が効果的である。また、就活、リクルート、リクナビとの関係で、企業役員も効果的である。
- ・PTA活動そのものが低下している。市立校園PTA協議会、市立幼稚園・小学校・中学校の各単位PTAの役員間の交流はあるが、会員全体の交流ができていない。
- 生活に近い施設やメディアを活用する。

テーマ②学校内対象

- ・学校側は、見守る、教えるのみで、制度的に横の連携ができていない。
- ・学校は学力偏重である。
- ・校庭開放が全市で徐々に増えてきている。
- ・校門の開放、「社会を明るくする運動」の取り組みは、先生の熱心さにかかわる。

テーマ①親対象 + テーマ②学校内対象

- ・おやじの会でも、教頭・校長がことなかれ主義であれば進まない。

テーマ⑨地域との連携

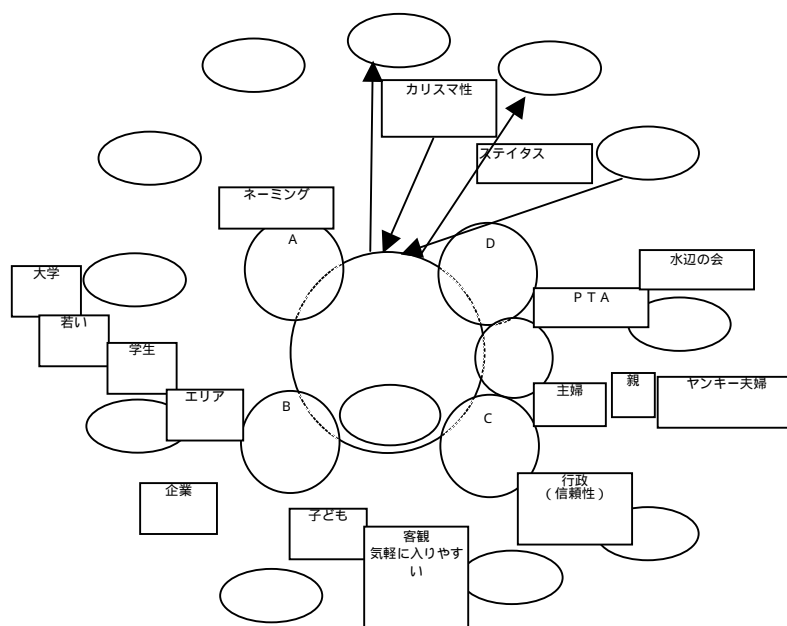
- ・ 市民活動センターは、相談、紹介はしているが、積極性が望まれる。
- 交流会はしているが参加者が少ないので多数の交流会参加者が望まれる。

テーマ⑩学校内対象 + テーマ⑨地域との連携

- ・ 教育委員会をまきこむことが必要である。
- ・ 学校単位の掃除等はPTAからまきこむ必要がある。
- ・ 市民が肩代わりする場合の問題点は、安全面である。
- ・ 中央小学校は、ボランティアが活発な学校である。
- ・ おやじの会では、野球、ボーリングの活動をしている。
- ・ 地域力と教育観を関連づけられるのはサークルである。活用するならばそのサークルを活用してはどうか。150団体あるが、交流会参加団体は20団体である。
- 先生が忙しく、取り組みが広がらないので、その役割を市民が代わることができないか。
- 教育しやすいまち、子育てしやすいまちをめざす。そのために小学校選択制を生かす。

テーマ⑪共通事項

- ・ 学校、地域、おやじの会等で、いろんな切り口で参加ができる。
- ・ 第三者機関が、親と学校の間を連携することが求められる。



- ・子ども・若い人・主婦・ヤンキー夫婦、PTA・水辺の会・行政（信頼性）・大学・企業、客観的に気軽に入りやすい立場の人間（例えばよそ者・若者・バカ者が大切）、ステータス・カリスマ性・ネーミング
- 寝屋川市には、大学、企業（中小）、おやじの会、30歳～50歳の母親等がいるので、その力を借りる。

<次回すること>

他の提案とともに第3者組織づくりを深めて提言に結びつけていく議論を行う。

以 上

部会名	第3部会：教育に関すること
分野に対する 考え方	寝屋川市の教育に関する将来目標（スローガン）は、次のキーワードを提案します。 ○教育しやすいまち、子育てしやすいまち ○「ゼーんぶ楽しもうよ！同じやるならまず参加しよう！チャレンジ」 ○みんなで楽しめる、元気で明るいまちづくり
提 言	テーマ①親の教育 ・子どもの目線をさがす（子どもが何に興味を持っているのかを調べる）《市民・行政》 - 年齢別、低・高学年別、テーマ別に、ホームルーム等を活用し、子どもが何に興味を持っているのかを調べる ・世代によって親と子のコミュニケーションのとり方がちがう ・コミュニケーションのとり方等は、大人の方が子どもたちについていけない ・安心安全メールの利用者は多い ・親層の教育は、会場は生活に近い施設、手法はメディアを活用する《市民・行政》 - 保育所、子どもセンター、コミュニティセンター等の施設、安心安全メール、ケーブルテレビ、しつけチャンネル等のメディアを活用して親層の教育を行う ・「おやじの会」は全国ネットの組織力があり、市内でのコミュニケーションも良い ・母親同士のコミュニケーションについては、学齢期までは、学年会、乳児健診、子どもセンター等でできている ・今の親の関心事等は、保育所、塾、HPネット、スポーツ新聞、パチンコ屋、コンビニ・スーパー等である ・成人教育講座の参加者は、学校間で差があり、積極性がないところもある ・親学の講師は、塾の先生特に歳に近い講師と、“就活”との関係で、企業役員が効果的である ・PTA活動自体が低下している。市立校園PTA協議会、市立幼稚園・小学校・中学校の各単位PTAの役員間の交流はあるが、会員全体の交流ができていない。 ・親層の教育・学習が第1に必要なである

提 言	テーマ⑧学校内での教育 ● 休日の校庭の有効活用のため、校門の開放を目指す《行政》 生徒の利便性の確保や公園のように校庭の利用のために、校門の開放を目指す ・ 小学校の校門を閉めているので地域の利用は難しい ・ 各学校には、地域の利用に関する受け入れ体制はある。カード制で（市民所有の通門証）学校が開かれている場合もある ・ 校庭開放が徐々に増えている ・ 校門の開放や「社会を明るくする運動」の取り組みは、先生の熱心さにかかわる ● ようこそ先輩方式で、各学校の先輩の話を聞く機会を設ける《市民・行政・その他》 寝屋川市出身の有名人等をリストアップし、その人の出身校で話を聴く機会を設ける ・ 学校の教育は学力にかたよっており、学校にゆだねると学力だけになってしまう ・ 教育方法は、マンガやアニメの方が子どもに理解される テーマ⑨地域との連携 ● サークル間の交流《市民・行政・その他》 □ コミや多様な活動のチャンネルの活用、行政機関の活用もふくめてサークルの紹介所の設置を行い、サークル団体同志の交流を進める ・ 個人が選べる情報入手や交流等のチャンネルがたくさんある ・ サークル内の連携を取るための情報がつかめない ・ 伝統的、テーマ的な組織があるが、組織に強制力がない ・ 生涯学習誌掲載の団体・サークルは１２００、社会福祉協議会５０、市民活動センターの登録団体１６０、計１４００グループほどある ・ 行政の施設担当は会員の数が増えるだけで満足しており、施設の利用者、団体をさがせていない。行政は器はつくるが、来る人は気にかけていない ・ 市民活動センターは、相談、紹介はしているが、積極性が望まれる ・ 「寝屋川市まちのせんせいバンク」は実施中である
-----	---

提 言	●子ども間の交流《市民・行政》 中学生はクラブ（部活）単位、小６～中学生の学齢を対象とする場合はクラブ（部活）をこえて交流を行い、子ども間の交流を進める。 ・今の子どもには行事に参加する意識に差があり、元気、時間、親の理解があるかどうか ・子どもは、「ねやがわピース」では平和の塔の行事よりも出店（でみせ）のほうに興味がある ●一般市民と子どもとの交流《市民・行政・その他》 市子連と行政が一緒になって小・中・高までのリーダーを育成し、さらに両方の組織づくりを進め、また、中学生との交流は市民活動グループ（既設）を活用するとともに、教育ボランティア従事者の参加に対し参加意欲の向上のためポイント制を導入し、一般市民と子どもとの交流を進める ・父親の存在が弱い ・しかってくれる人が今の子どもにいない ・今の子どもは、人に対して“力加減”がわからない ・中学校からの要請が有り、読み聞かせの後継者が求められる ・理系の学生は、専門分野（コンピューター・ロボットなど）の知識等は身につけているが、交流は得意ではない ・基礎的な考え方を養うために、保育園児、小学校低学年の情操教育が必要である ・母子家庭、父子家庭への対応が必要である ・女性の意識変化が必要である ●高齢者と子どもとの交流《市民・行政》 イベントの企画、スポーツ活動などで、高齢者と小学生や中学生の子どもとの交流を進める ・少子高齢化が進んでいる ●一般市民と高齢者との交流・役割分担《市民・行政》 中学校の周辺の掃除活動、親の役の分担等により一般市民と高齢者との交流・役割分担を進める ・歌のコンサートでは高齢者の方が集まる ・他世代との交流が必要である
-----	---

提 言	テーマ⑩共通、複数の立場の連携 ● みんなで楽しもうねやがわーえ・が・おー《市民・行政・その他》 ねやがわの「子ども」を中心にして、「家族」以外に「寝屋川市」、「学校」、「産業」、「地域」が連携を進める ・ 今は昔の縦社会の関係がうすい ・ 学校、地域、おやじの会等で、いろんな切り口で参加ができる。 ・ おやじの会でも、教頭・校長がことなかれ主義であれば進まない。 ・ 共通体験が大事である ・ 市民が肩代わりする場合の問題点は、安全面である。 ・ 小学校には、ボランティアが活発な学校もある。 ・ おやじの会では、野球、ボーリングの活動をしている。 ・ 教育委員会をまきこむことが必要である。 ・ 学校単位の掃除等は P T A からまきこむ必要がある ・ 対象者は、子ども・若い人・主婦・ヤンキー夫婦、主体別には、P T A・行政（信頼性）・大学・企業・水辺の会、客観的に気軽に入りやすい立場の人間、キーワードはステイタス・カリスマ性・ネーミング、新しい力の導入は、よそ者・若者・バカ者（既成事実等にこだわらない人）が大切である ● 元気で明るいまちづくりーねやがわクラブー《市民・行政》 団塊世代が中心に活動し、また、市民活動センター登録団体を始め各種のサークル、団体、グループなどとの協働を図るとともに、行政の諸機関の積極的な協力支援をあおぐ ・ 既存の団体の連携がうまくいっていないから、既存団体間、各グループを連携するのが難しい ・ 地域力と教育観を関連づけられるのはサークルである。活用するならばそのサークルを活用してはどうか。生涯学習案内他資料によると、1,400 団体である
------------	---